

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部



令和七年九月度 入賞句一覧 投句数 六百七十二句

特選

度会 さち子 選

百歳の背をまつすぐに秋の空

大垣市 白井 秀子

日本の人口は、百歳以上が十万人という。作者は昭和百年を生きてきた人である。戦争も敗戦後の日本も、懸命に働いた高度成長期も知っている。伊勢湾台風もあのコロナ禍も、家族を守りともに生きてきた。百年にはいろいろあつただろう。「背をまつすぐに」は、生き抜いてきた作者の感慨がある。秋の空は、その人生のように清々しく青くて深い。

死者若く生者皆老い八月来

東京都江戸川区 羽住 博之

八月は、原爆、終戦と戦争に向き合う月だ。あの戦争で多くの若者が死んだ。遺影は若いままだ。戦争で死なずに済んだ我々は老いた。今、あの戦争を知らない世代が八割を超えた。世界はきな臭くなつてきている。戦争をどう伝えていくのか。対比させうまく詠んだ。共感を呼ぶ。

秋暑し瓶底たたき振り塩す

海津市 横井 美圭

今年は猛暑が続いた。ここきて朝夕はさすがに涼しくなつたが。さて、熱中症には塩分が欠かせない。食事もいくぶん塩分を多めにとつたのだろう。食卓にある瓶の食塩も少なくなつた。瓶をたたき音、零れる塩の音も聞こえるようだ。まだまだ暑い秋の食卓の、ちいさな一コマを捉えた佳句。

秀逸

重たげな夕日の落ちてすこし秋

大垣市 早笈 千恵子

秋天に手を振るやうに窓を拭く

東京都新宿区 花澤 ちいこ

仁王像阿吽狂わす猛暑かな

大垣市 浅野 翔泉

ポケットに異国のコイン秋はじめ

岐阜市 田中 淳子

金風に誘はれるまま遊び蔓

本巢市 小泉 裕子

今日もまたなんだかんだと蟬しぐれ

大垣市 高津 喜久子

鬼の子の日の端しかと掴みたる

安八郡輪之内町 野村 照子

浜の碑の八絃一字夕かなかな

三重県四日市市 井立 美智乃

豚汁のにんじん甘き夏の暮れ

愛知県豊明市 希凜咲女

渾身の研師の刀秋澄めり

神奈川県横浜市 龍野 ひろし

入選

空澄みて襟髪やさし萩の風

養老郡養老町

佐藤 礼子

バス停を降りれば一人虫の闇

岐阜市

古田 静子

盆近しバツハの好きな老僧来

大垣市

吉川 和子

赤蜻蛉群れて夕日へ下る舟

大垣市

高田 雅章

大の字に昼寝している吾子と猫

大垣市

堀江 敏子

天高し祝詞朗読地鎮祭

大垣市

宇佐美 昭子

月光やニホンオオカミ復元図

愛知県名古屋市中村区

四條たんし

南風や儘ならぬ身の病室へ

広島県福山市

栗本 リカ

虫を聴く歩みとなりて家路ゆく

群馬県館林市

坂口 いちお

鴨の来て苦き珈琲まだ慣れず

本巣郡北方町

谷 弘行

秋夕焼け頬染められて野の羅漢

神奈川県相模原市中村区

光枝

川瘦せて田畑声なき酷暑かな

各務原市

能登 航

ひもすがら秋の金魚のうはの空

東京都武蔵野市

木嶋 純子

風鈴や猫の昼寝に添い寝する

大垣市

香田 末代

ひまわりよ咲きほこりつつ下を向く

大垣市

増田 あつ子

選者吟

八月の蛍ゆるりと軍馬の碑

さち子



一般の部